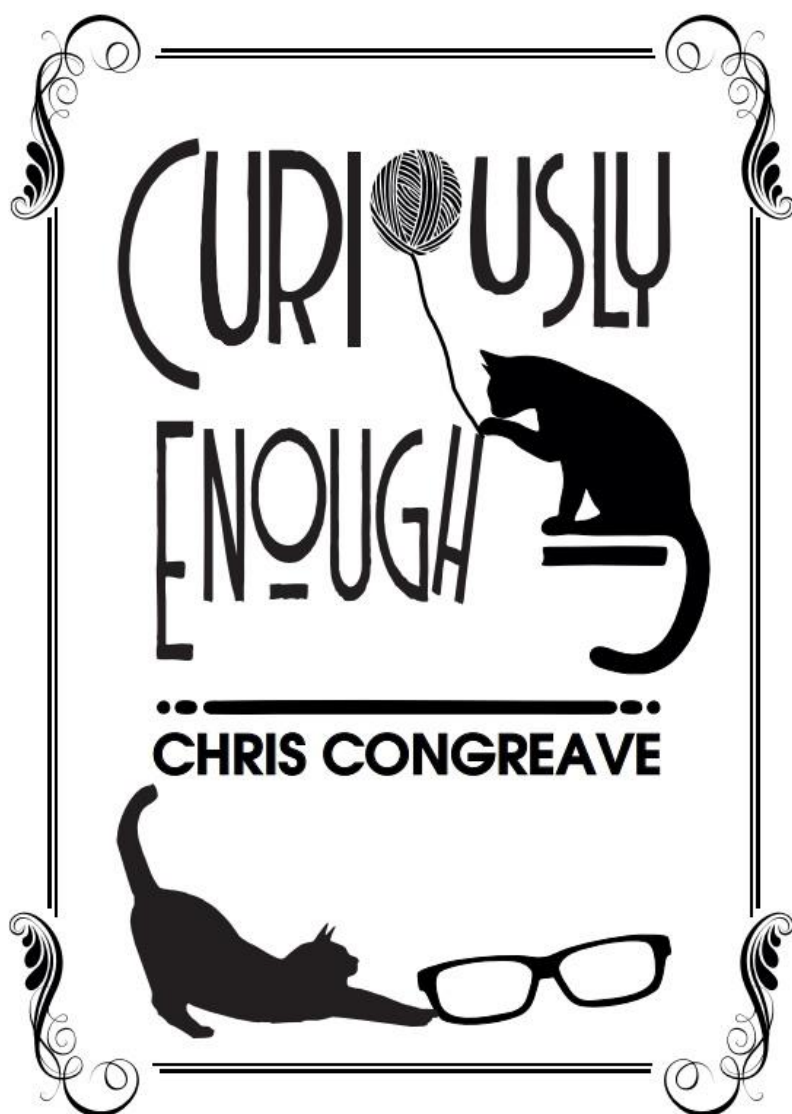


キュリオスリーイナフ

「不思議満載」



<日本語版>

CURIOUSLY ENOUGH

Written by
Chris Congreave

Cover Design by
Steve Haresign

< 日本語版 >

Exclusive Japanese Edition

*This Japanese Translation is authorized
by Chris Congreave*

*この日本語版は Chris Congreave より
日本語版としての権利を購入して
(有)フェザータッチ MAGIC にて発行するものです。
(2023/2/25)*

翻訳：平賀義達

編集：【フェザータッチ MAGIC】

~~~~~

## ＜訳注＞

これはイギリスのマジシャン、CHRIS CONGREAVE の前著

「CURIOSR&CURIUSER」(FT マジックで日本語版を販売中)の続編とも言うべき本です。43のエフェクトと1つのエッセイが収められており、エフェクトのうちいくつかはコインや名刺を使うものです。

他はすべてカードマジックですが、そこには彼の多彩なアイデアがあふれています。読者の中には、それぞれのエフェクトの演技時間が短いものが多いと感じる方もいるかもしれませんが、それは著者のCHRISが企業や結婚式のパーティーを主戦場とするマジシャンだからです。テーブルホッピングや「STROLLING」(会場を歩き回って演じる)タイプの演技環境に合わせた、複雑でない、現象が分かり易いものが主体になっているからです。

とにかくいろいろな現象とやり方のエフェクトがありますので、きっと読者のお気に入りのエフェクトが見つかると思います。お楽しみください)

~~~~~



FOREWORD （序文—要約）

私はクローズアップマジックが好きではありません。

という言い方はクローズアップマジックにとってフェアではないかもしれませんが。私はクローズアップマジックの演じられ方が気に入らないことがあるのです。なにも、静かな夜に6つか7つの同じ劇的な要素もなく脈絡のないトリックをやりながら断りもなくテーブルの間を渡り歩かなくても、人にとってもっと有意義に夜を過ごす方法があるのではないかと思うからです。

レストランに行けば行っただ、私の貴重な一夜はうるさくしゃべりかける無遠慮な「スライハンドイリュージョニスト」なる者に邪魔されます。

彼らはコインを貸せば曲げて返し、紙幣は時にはレモンジュースだらけにして返し、時計は腕相撲のような動作の中で盗みます。それらのことが、まともな脚本家からすれば、文法も無視したようなお粗末なセリフとともに繰り上げられるのです。

テーブルでは大いに楽しい時が流れますが、それはマジシャンにとって楽しいという事であり、客達は上品でプライベートな会話をしていたのに、誰かが割り込んで来て、どうしてこんなことになったのかと戸惑うばかりです。

そして、なんでもかは知らないけれども、先ほどまでデッキのあった所に氷の塊が現れて、着こなしの良くない男が英雄であるかのようにふんぞり返って去って行くのです。後には濡れた客の手やテーブルが残るというのに、です。こんなクローズアップマジックを見せられたら、嫌にもなります・・・。

ここまで読むとおそらくあなたは、クローズアップマジックの演技についてこんな風に感じている男になぜ著者の CHRIS がこの本の「序文」を書くように頼んだのかと不思議に思う事でしょう。それは、私が彼に借りがあるからでしょう。なぜなら、私は自分の結婚式のパーティーでは CHRIS にクローズアップマジックをお願いしてやってもらったからです。

偉大なるマジシャンと言うものは、マジックを愛し、人を愛し、ハードワークを愛するものだと思います。CHRIS はその3つの要素を十分に持っています。CHRIS は他のマジシャンが時間をかけて考えるようなルーティンを、ランチの時間の中で思いつきます。彼は、私が今まで会った人々の中で

も本当に強力なマジックを創れる人だと、私に本能的に感じさせてくれるマジシャンです。

彼は時として名人の輝きも見せますし、また「STAND-UP COMEDIAN」としてのおかしさも見せますし、何より自分よりもマジックを前面に出して、マジックを主役にする謙虚さも持っています。CHRIS は彼の長い成功に満ちたキャリアの中で、キッズショーから大きなイリュージョンまでこなしてきました。しかし、彼が本当に得意とするのはクローズアップマジックであり、ほとんど趣味のようになっています。それが彼の成功の秘密のようです。

彼はスライハンドマジックも軽くこなしますが、コンベンションで朝の5時まで一緒に過ごしてみると、彼の好みが必ずしもそれではないことが分かります。彼が求めるのは、楽しく実用的なマジックなのです、

あなたが手にしている本には、その実用的、実践的なマジックがつまっていると思います。私はあなたがそれらを気に入るであろうことを保証します。もし気に入らなければ、私は個人的に代金をお返しいたします。実は、私自身がまだこの本を読んでいないにも関わらず、です。

CHRIS が「良いものが出来た」と言えば、私は信じます。彼は今まで、私をがっかりさせたことは一度もありませんでしたから。

2022年3月 MARK JAMES

（訳注：MARK JAMES は20年以上のキャリアを持つマジシャンで、世界40か国での演技経験を持ちます。スライハンドとコメディを融合させたユニークなショーを展開します。TV やマジックキャスルにも定期的に出演しています）



<目次>

著者と本書について：FOREWORD	4
ウソ：Liar	8
いつも携帯するカード：Everyday Carry Cards	12
ストップ：Stop	17
50/50	19
コイン・プリディクション 2.0：Coin Prediction 2.0	22
コイン・プリディクション 2.5：Coin Prediction 2.5	24
ビジブル・プリディクション：Visible Prediction	25
キックバックカード to ワレット：Kickback Card To Wallet	27
キックバックカード to ワレット 2.0：Kickback Card To Wallet 2.0	29
ホーリー・プリディクション：Holey Prediction	31
フューチャラマ：Futurama	32
ポケット・マトリックス：Pocket Matrix	35
エニー・ネイムドカード・アゲイン：Any Named Card - Again	37
プリディクタ・パック：Predicta Pack	39
ハリー イン ユアポケット：Harry In Your Pocket	43
ハリー イン ユアポケット（ノーパーム・バージョン） Harry In Your Pocket - No Palm Version	44
ふざけるにもほどがある：You Must Be F*****g Joking!	44
インビジブルデッキ・プリディクション：Invisible Deck Prediction	46
テーブルセット：Table Set - An Essay On Working Tables	49
ダイアリー・トリック：Diary Trick	53
ダブルカード to ワレット：Double Card To Wallet	55
ザ・フラッシュ：The Flash!!	56
スティッキー・ビジネス：Sticky Business	58
タイム・フォー・ア チェンジ：Time For A Change	60

DAVE に感謝：Thanks To Dave - Propless	----- 63
ファット・ア・ジョーク：What A Joke	----- 67
カッティング・ザ・エース：Cutting The Aces (again)	----- 69
グリースとビール：Grease And Beer	----- 71
絵の移動：Drawn Transpo	----- 73
X レイト・ジョーク：X Rated Joke	----- 78
アンユージュアル・チェンジ：An Unusual Change	----- 79
ミラーデッキ：Mirror Deck	----- 80
エース・プリディクション：Ace Prediction	----- 81
チャイルドプレー・スピンオフ：Childplay Spin Offs	----- 83
チャイルドプレー：Childsplay	----- 84
チャイルドプレー2.0：Childsplay 2.0	----- 86
バリエーション：Shaun's Childsplay Variation	----- 91
チャイルディッシュ・プリディクション：A Childish Prediction	----- 94
チャイルディッシュ・アニバーサリー：A Childish Anniversary	----- 95
私の予言：I Predict...	----- 99
キラー・カードトリック：Killer Card Trick	----- 100
ビッグ・ファット・サンドイッチ：Big Fat Sandwich	----- 102
ひどい名前のトリック：The Trick With A Terrible Name	----- 106
爆睡：Loads Of Sleep	----- 109
終わりに：Final Thoughts And Thanks	----- 111



ウソ：LIAR

これは「LIE DETECTOR（うそ発見器）」エフェクトの1つの素敵なプレゼンテーションであり、強力でマジカルなフィニッシュとなっています。

（現象）

1枚のカードが選ばれ覚えられて、またデッキに戻されます。さらに裏の色の異なるカード数枚のポケットを見せますが、それらのカードの裏には「LIE（うそ）」という単語が書いてあります。そして、客のカードについていくつかの質問をしていきますが、その都度客は本当でも嘘でもよいので質問に答えます。その答えはカードを1枚ずつ配りながらスペルしていきます。マジシャンは質問の結果、最後にカードはダイヤの3だと言います。

「私はあなたのカードがこれだと絶対の自信があるのです。ですから、こちらのカードもすべてダイヤの3を用意してきたのです」と言って、デッキと裏の色が違うポケットのカードのフェースを見せると、すべてダイヤの3です。

「では、ここで初めて本当のことを聞きます。あなたの選んだカードは何でしたか？」と聞くと、客は「ハートの6」と答えます。マジシャンのカードとは違います。

マジシャンは、「実は本当のことを言いますと、これらのカードがすべて同じカードだと言った時、私はうそをついたのです。このカードだけが違うカードなのです」と言って、先ほどダイヤの3と見せたカードを表返すと、それがハートの6に変化しているのです。

（やり方）

ここで行う「うそ発見器」のルーティンは、有名な JIM STEINMEYER の「NINE CARD PROBLEM」を7枚のカードでやる DAVID SOLOMON のやり方を使っています。あなたは好きな「うそ発見器」のルーティンを使えば良いですが、たまたま私は DAVID のやり方がお気に入りだったので。

—以下省略—

いつも携帯するカード：EVERY DAY CARRY CARDS

これはかつて私が商品化して販売したもので、MICK WILSON にデザインしてもらったカードを使いました。そのエフェクトは素敵なもので、いつも身につけて持ち歩けます。私は携帯電話のケースに入れて持ち歩いていました。特別なカードがなくても、ブランクカードに皆が持っているような品物の名前を書いて使うことができます。4枚の青裏のカードと4枚の赤裏のカードを使ってもよいし、8枚の赤裏のカードを使って、MICK WILSON の「私の物。あなたの物」という素敵なアイデア（後記）を活かしてもよいです。

このエフェクトのベースになっているのは、NICK TROST の「8CARD BRAINWAVE」です。私はこの素晴らしいルーティンを随分前に、MICHAEL AMMAR の「EASY TO MASTER CARD MIRACLES」のビデオで最初に見ました（そうです、ビデオです。随分昔ですね）。

このルーティンのためには難しいスライハンドは必要なく、「OLRAM SUBTLETY」というやり方を使います。もしあなたがそのやり方を知らなかったら、最後に簡単にやり方を書いておきます。

（訳注：と言いながら、書いてありません！そこで基本的なやり方を説明しておきます：

8枚のカードを表向きで赤裏、青裏・・・と交互に並べます。フェースカード（赤裏）を表向きでテーブルに置きます。残りのカードを表向きのまま左手に持ったら、フェースカードを親指で右へと押し出し、右手に取ります。そのまま両手を返して左右の手のカードの裏をみせると青裏です。両手を元に戻したらすぐに左親指で左手のフェースカードをテーブルに置き、すぐ右手のカードをその上に重ねます。また左手のフェースカードを右手に取って同じことをします。もう一度同じことをします。最後に残った1枚を両面を見せながらテーブルの6枚の下に入れて全体をすくい上げて、カードをそろえたら裏向きに青裏を見せてテーブルに置きます。これで客は青裏しか見ていないので、表向きのカードが赤裏であることに驚くわけです）

（現象）

マジシャンは財布から数枚のカードを取り出しますが、そこには客がいつも身に着けているであろうものが書いてあります。客に、そこに書かれた品物をどれか取り出してもらいます（仮に携帯電話とします）。客に残りのカードの裏を見せると、それらは赤い裏のカードで、それぞれに大きな「X」マークが書かれています。「携帯電話」のカードを裏返すと、それだけが青裏なのです。

（カードとセット）

8枚のブランクカードを用意したら、それぞれに品物の名前を書いておきます（14頁の写真）。以下は、普通誰でもが3、4つは持っているであろうものの例です。

ペン、携帯電話、コイン、紙幣、クレジットカード、キー、ライター、時計など。

カードは赤裏と青裏のカードを交互にセットしておきます（8枚の同色のカードを使うアイデアは後記します）。

（やり方—基本のルーティン）

カードを取り出したら客に見せて、「これらは、我々がよく身に付けているものです」と言います。客にこれらの品物を持っているかと聞き、持っている物をテーブルに出してもらいます。もし客が複数の物を持っていたらベストです。エフェクトがより不可能なものに見えるからです。

客が、クレジットカード、携帯電話、キー、時計を取り出したとします。

—以下省略—

（変なカードを使うアイデア）

4枚の「妙な」品物のカードを混ぜておくアイデアです。もしあなたがFUNNY（おかしい）な演技をしたければ、使ってみてください。

—以下省略—

ストップ：STOP

（現象）

ちょっとしたキッカーエンディング（驚きのエンディング）を持った ACAAN エフェクトです。客に1枚のカードと1つの数を思ってもらい、その枚数目まで客にカードを配ってもらいます。客がその枚数目まで来ると、そのカードのバックには「ここでストップ」と書いてあります。そのカードを開けると、まさに客のカードなのです。

（やり方）

正直に言えば、上記の記述はよくあるマジックディーラーの広告文に近いです。しかし、それがマジシャンがやりたいと思っていることであり、客が記憶に留めることになる現象です。



とてもフェアに見えるギミックを使ったやり方と、同じように素敵なギミックを使わないやり方がありますが、1枚の任意のカード（クラブの6とします）を別に用意し、その裏に

「ここでストップ」と大きく書いておきます。

（ギミックを使うやり方）

これは CRAIG PETTY が考えたもので、1枚のWバックカード（両面とも使うデッキと同じ色）が必要です。

—以下省略—

ギミックカードを使わない場合には、クラブの6をトップにセットしておき、「BALDUCCI CUT DEEPER FORCE」を使います。

—以下省略—

50 / 50

（現象）

マジシャンはカードボックスをテーブルに置いて、こう言います：

「私が誰かにカードを1枚思わせると、たいていはスペードのAかハートのQを思うのです。あなたはとうですか？さて、今ここにそのAとQを持っているとして、あなたはどちらを言いますか？」

客が「ハートのQ」と言ったとします。マジシャンはカードボックスの中から1枚のカードを取り出します（他には何も入っていません）。そのカードを見せると、それがハートのQなのです。さらにマジシャンは、「私には、あなたがハートのQを選ぶことに確信があったので、実はカードボックスにもそのことを書いておいたのです！」と言って、カードボックスをひっくり返すと、裏にはシャーピーで大きくハートのQと書いてあるのです。

—以下省略—